

東京大学

理学部広報

第2巻 第1号 昭和45年1月15日

内 容

年頭の各教室訪問記	2
理学部附属施設について	3
臨時カリキュラム委員会から	3
大学院理学系研究科 科学史・科学基礎論専門課程設置	4
「改革フォーラム」の発刊	4
理学会合日誌・教授会メモ	5
記事訂正 (長谷部言人元教授に関して)	6
お知らせ (外国人のための案内書, 留学生・奨学生募集など)	6

附: 理学部広報第1巻 (1969年) 総目次

年頭の各教室訪問記

いよいよ 1970 年代が明けました。昨年末から本年のはじめにかけては、一年前とはちがって静穏うちに越年し、適当に休養をとられるなり、英気を養われて、新しい年への期待をもって、登校あるいは出勤されましたことと思います。東京大学理学部は、現在いろいろな問題を抱えてはおりますが、そのうちさしあたり可能なことはできるだけ早く、実現してゆくように各教室でつとめております。たとえば、昨年 12 月に教養学部から新 3 年生を迎えるにあたって、先号広報に記載されてあります理学部長の挨拶にも記されています通り、理学部での授業科目はかなり変更されています。学生が学びたい科目の選択の可能性が増し、他学科や他課程で行なわれている科目の単位をとる便宜が大幅に考慮されており、幅ひろい勉学ができやすいようになっています。新しい授業科目一覧は、去る 12 月に発行された昭和 44 年度理学部便覧に各学科課程別に掲載されています。また一方今年 4 月に教養学部新しく入学してくる学生に対しては、どのような授業を実施するのがよいかについて「臨時カリキュラム委員会」で目下 鋭意検討中で、近々具体的試案が出される見込みであります。

理学部での教育設備は決して現代の理学教育に十分なものではありません。理学部や理学系大学院がどうあってほしいか、具体的にどのような措置を政府にとってほしいかについては、理学部広報第 1 巻第 11 号に掲載された「第 31 回国立 10 大学理学部長会議でつくられた要望書」に詳しく記されています。理学部内各教室および付属施設に共通する事項をあげれば、

学科の新設、拡充改組、共同利用研究施設の新設

講座および部門当りの基準面積の増加

大学院の拡充強化(設備の充実、研究教育要員の充実、

助手の待遇改善、学生定員数の調節、学生経費の増額、大学院生の研究旅費の予算化、大学院奨学生への待遇改善、大学院学生への研究補助制度、奨励研究生制度の改善)

特殊装置および特殊施設の定員増と維持管理費の増額
学科等新設に伴う設備費の増額

学生の災害補償

あります。第 31 回国立 10 大学理学部長会議でつくられた要望書は、とくに生物学・地学関係学科(天文学・地球物理学科などを含む)の拡充整備が他の理学諸分野に比して著しく立ちおけていることが具体的に指摘され、上記の共通事項のほか

生物学・地学関係学科の拡充整備

学生野外実習指導旅費の増額と野外学術調査旅費および学生に対する野外実習旅費ならびに野外実習費の新設

臨海臨湖実験所の整備充実

植物園等の整備充実

があげられています。

最近筆者が各教室主任や附属施設長を訪ねて事情をおたずねしましたところ、実際に各教室では、現状では建物面積の狭隘、財政事情あるいは教員不足などの事情により、現代の最先端をゆくための十分な教育や研究を行なうことが難しく、大学としての重要な使命遂行に支障を来している点が残念ながら少なくありません。ほんの一例をあげますと、

数学教室では、学生数増加に伴って学生が勉学するための室が著しく不足してきていること。

物理学教室では、講義室として利用できる室をこれ以上捻出することができないので、多くの講義を同時にして教育能率をあげたくても、それができないこと。

天文学教室および地球物理学教室では、それぞれ実地の天文学・地球物理学を体得するに必要な測定や演習を行なう設備ならびに室を現在では用意できないこと。

化学教室では、運動場に面した新館を拡張増築して物理学教室に面した側の老朽建物中の諸設備を移すとともに、さらに必要な大型設備を多く入れて研究室の現代化をはかりたいと切望していること。

生物化学教室では、学生実験の場所ならびに設備が不十分で、基礎測定装置の不足から昔の帆船時代における風待ちのように機械待ちの状態であり、互いに研究時間を調節しなければならぬ非能率を強いられている。

動物学教室、植物学教室、人類学教室、地質学教室、鉱物学教室、地理学教室が入っている理学部 2 号館は、全体として面積不足のために演習室、実習室、講義室、資料保管場所などが十分にとれず、生活環境も悪く、教育の面においても現代の最先端を行くために必要な装置を備える実験室が欲しくてもつることができない。また鉱物学教室のような小教室では教官の負担があまりにも多い。

などの点が緊急な問題となっております。

しかし、このような現状にもかかわらず、各教室ではできる限りの努力を払って現状打開を試み、学生諸君が幅ひろい勉強ができるようにと努めております。また理学部として図書管理・利用の面において、もっと能率が

よい方式を考える必要があるであろうということも話題になりました。なお、学生諸君の教科選択・将来の進学あるいは就職などの問題については、元来、東京大学では、カウンセリング組織が貧弱であることも問題ではあり、理学部内各教室で事情がそれぞれ異ってはおりますが、各教室主任はどうか遠慮なくいろいろ相談に来て下さいと述べておられますことを付け加えておきます。

(福島 直 記す)

理学部附属施設について

前記各教室主任訪問記事をとるに際し、理学部附属の
臨海実験所

植物園

地球物理研究施設

の長あるいは代理の方々にも事情をおうかがいしましたので、ここに紹介いたします。なおいずれはこれらの施設については、適当な写真を入れての紹介記事をそのうち理学部広報に掲載してはいかかかと考えております。今回はほんの簡単な紹介であります。

臨海実験所 明治 18 年に神奈川県三浦市三崎町に設けられ、明治 30 年に小網代荒井城址に移った。総面積は 76,555 m² (23,158 坪) である。このあたりは人類学的・地質学的にも興味ある地域で、有名な諸磯貝塚などが近くにありますが。自然環境がよい所で、このような施設が理学部附属であることをご存じない方も多いため、是非一度は御来訪の上三崎の美しさを味わっていただきたいとあります。研究環境についていえば、すぐまわりの海面で油が浮いてプランクトンが死滅するようなこともおこるようにはなりましたが、その欠点は試料採集に出かけることによって十分補われるので、動物層は豊富であり、まだ当分は良い環境が保たれると予想される。この臨海実験所は学生の実習に重点が置かれている点世界でも珍しい由で、外国からの見学者も多い。現在最も困っていることは寄宿舍が不足でかつ老朽していることであり、折角の施設を大いに利用できるように宿泊設備が整えられることを切望している。

植物園 文京区白山にあるものは総面積 161,588 m² (48,880 坪) であり、元徳川幕府の薬園であったものが明治 10 年本学理学部所属の植物園となった。また明治 35 年には栃木県日光市に総面積 104,491 m² (31,608 坪) の植物園分園が設けられている。このように古い歴史を持っており、諸外国の植物園と研究資料や情報交換をする一方、参観者・利用者のためのサービスもあり、財政面および労力の面で保守に大変な苦勞を払っている。小石川植物園では特に戦後環境が次第に悪化してきてい

て、今後の方針について植物学教室といっしょに考えつつある。場合によっては植物園の一部は研究のための立入制限などもする必要があろうとのことである。

地球物理研究施設 茨城県新治郡八郷町柿岡所在の東京大学理学部用地を活用しての地磁気・超高層大気研究を行なうために、東京大学理学部では初めての附属研究施設として昭和 39 年度から発足した。上記の土地は大正 2 年から本学が所有しており、総面積は 464,082 m² (約 13 万坪) で農学部を除いた東大本郷キャンパスよりもやや大きい。この土地は戦前・戦中はほとんど使われず、戦後になって人工的なノイズが少ないことを利用して地磁気や超高層大気研究のための研究観測に利用されるようになった。昭和 34 年度から 38 年度までの間は、理学部附属地球物理観測所となっていた。現在まだ研究遂行に十分なだけの建物はなく、観測所当時から使用していた若干の小建築物があるにすぎず、また敷地全体の保守管理が十分行き届いてはいませんが、この土地を利用しての研究を希望される方々にはできるだけ御便宜をとりはからいますから御相談下さい。東京からは、常磐線石岡駅下車、柿岡までバスがあり、バス終点より徒歩約 20 分です。

(福島 直 記す)

臨時カリキュラム委員会から

理学部委員 高 宮 篤

昨年 11 月下旬に委員会が発足してから本年 1 月 9 日までに 6 回の本委員会、ならびに数回の subcommittee 会合を行ない、昭和 45 年度入学者のためのカリキュラムの検討をすすめている。12 月下旬からは理 1、理 2、3 等の科類別の小委員会それぞれの部分のカリキュラムの改革、改良の可能性を具体的に検討し、それらをつきあわせて全体の試案を作る作業にとりかかっている。人々の考え方により、着眼の重心点の置き方により、またそれぞれの学科・学問分野における学修や学問的成熟過程の特長な違いを反映して、およそ可能な考えのスペクトルの端から端までの意見分布があり、それらすべてを容れる解答はおよそ見出されるべくもない。しかし現実には、それらのうちのどれか一点（あるいはある幅）をえらんで実行案とせねばならないというこの上もない難しい問題である。実際にはある一つのかかなりの flexibility を持った方針を打ち出し、各科・各分野はその根本方針にそってそれぞれの実情にもっとも適した運営を工夫し、あるいは実験を試みるというのが最も賢明

な策であり、またそれ以外に前進の方法はないのであろう。理学部内の各学科、専門分野の意見・実情をあつめることは、この際最も大切なことの一つである。今のところ主として各教室の主任にその仲介となっていたが、そのほかにもひろく理学部内の諸君の意見を、直接にでも間接にでもどしどし寄せていただきたい。

(45年1月12日記す)

大学院理学系研究科

科学史・科学基礎論専門課程設置

昭和45年度から東京大学大学院理学系研究科に、あらたに科学史・科学基礎論専門課程を設置することは、かねてから政府に要求中であった。また最終決定には至っていないが、ほぼその実現は確かと見通される段階に至っている。この専門課程設立の理由は下記の通りである。

自然科学の急速な発展とその加速度的な分化・専門化の時代にあつて、全体的視点よりする自然科学の歴史的形成の分析ならびにその論理的構造の解明の必要性はますます増大しつつある。この方面の研究によって、自然科学のもつ意味、人間の知的活動の中で占めるその位置などを明らかにすることは、現代における重要な学問的課題の一つである。

こうした要請に応えるべく、近来専門的学問分野として確立を見たのが、科学史・科学基礎論であり、世界の諸大学では既にその研究教育のための機関が設置されている。しかしわが国においては、従来この種の機関を欠いていた。

ここに、東京大学教養学部教養学科にある科学史・科学哲学関係の三講座を基礎として、科学史・科学基礎論専門課程を設置し、自然科学の諸分野をはじめ広く各方面の専門家と密接な連繫を保ちつつ、この分野における高度の研究・教育を推進することを意図するものである。

「改革フォーラム」の発刊

大学改革に関する学内の諸情報について、大学側のそれぞれの関係機関から提出された原稿をもとに、東京大学広報委員会が「改革フォーラム」と題する出版物を編集、発行することになり、1969年12月15日付でNo.1が出されました。「改革フォーラム」は、本学の淵面

の課題である大学改革に関する information の流通の円滑化をはかり、大学改革の進展に寄与する目的で出される広報媒体です。さしあたっては、おもに全学的レベルでの大学改革についての必要な情報を中心にしますが、大学改革が学内各層の共通の関心事であることにかんがみて、編集の面で、将来はその方向に沿った企画も考えていきたいとのことです。なお、しばらくの間は月1~2回程度の割合で発行することになる見込みですが、緊急の必要が生じた場合には「改革フォーラム・速報」(仮称)を発行する予定とのことです。この「改革フォーラム」は、教官層だけでなく、大学院学生・学部学生・職員などの各層の方々にも読んでいただきたいと希望がのべられてあり、ご意見・ご提案がありましたら広報委員会あてに、できるだけ書面でお寄せ下さい。

「改革フォーラム」No.1 所載記事には

「再び大学改革への積極的な取組みを要望する」と題する加藤総長のよびかけ

改革補佐団の発足

大学改革についての従来経過(日誌)

学部学生諸君への学生委員会からのよびかけ

大学院生諸君への大学院学生委員会からのよびかけ
職員改革委員会の組織化について、職員連絡委員会

から職員各位への提案

大学改革準備調査会の性格と活動についての解説

工学部の改革委員会からの寄稿

があります。

理学部会合日誌

- | | |
|----------|--|
| 12月1日(月) | 新3年生進学ガイダンス(午前中)と各学科でのガイダンス(午後)、臨時カリキュラム委員会(15~17時) |
| 2日(火) | 会計委員会(16~17時半) |
| 3日(水) | |
| 4日(木) | 臨時カリキュラム委員会(15~17時) |
| 5日(金) | |
| 6日(土) | |
| 7日(日) | |
| 8日(月) | 理学系研究科委員会(14~17時) |
| 9日(火) | |
| 10日(水) | 会計委員会(10~13時)、人事委員会(13時半~15時)、教室主任会議(15~17時)、名誉教授招待会(17時半~20時) |

- 11 日(木) 教養学部懇談会
(17~20 時半, 於化学新館会議室)
- 12 日(金)
- 13 日(土)
- 14 日(日)
- 15 日(月) 理学系科学史・科学基礎論専門課程設
立準備委員会 (13~15 時)
- 16 日(火)
- 17 日(水) 学部長理職との会見 (11~12 時), 定
例教授会 (13~17 時半, 於 4 号館会
議室), 学部長理系自治会と会見 (18
時半~20 時半)
- 18 日(木)
- 19 日(金)
- 20 日(土)
- 21 日(日)
- 22 日(月) 臨時カリキュラム委員会 (13~15 時)
- 23 日(火)
- 24 日(水)
- 25 日(木)
- 26 日(金)
- 27 日(土) 御用納め
- 28 日(日)
- 29 日(月)
- 30 日(火)
- 31 日(水)
- 1 月 1 日(木)
- 2 日(金)
- 3 日(土)
- 4 日(日)
- 5 日(月) 御用始め
- 6 日(火)
- 7 日(水) 教室主任会議 (10~12 時)
- 8 日(木)
- 9 日(金)
- 10 日(土)

教授会メモ

12 月 17 日(水) 定例教授会
(13 時~17 時半, 於物理新館会議室)

1. 前回議事承認
- 2-1. 学生転学科の件
- 2-2. 人事異動等の報告

3. 諸報告

評議会で高圧タンク爆発事件の責任問題について結論を出した事、昭和 45 年度入試要項を決定した事、国大協で大学改革試案が出された事、大学院理学系研究科委員会で来年度の募集の大綱をきめた(入試時期は未定)、科学史・科学基礎論専門課程の設立準備が進められている事、「改革フォーラム」の発刊、大講堂改修利用計画の検討進行状況、などが報告された。

4. 幹事会報告

昭和 46 年度入試についての理学部教官の意見をまとめつつある事、12 月 11 日に教養学部基礎科学科の教官との懇談会の報告などがあった。

5. 会計委員会報告

部長保留金の昭和 44 年度第 2 次配分として、化学館、1 号館、2 号館での建物被害修理に使用する案が出されて承認された。また昭和 45 年度科学研究費申請状況についての報告があった。

6. 教員免許状に関する専門科目の単位認定の件

昭和 44 年度 12 月以降各学科での教科の科目名称変更などを考慮して新しい一覧表をつくることになった。

7. 昭和 45 年, 46 年度の進学について

昭和 46 年度には、昭和 44 年度入試がなかったために学部進学者が留年生だけになる状態が生ずるが、このような状態で昭和 45 年, 46 年両年度の進学をどうするかについて全学的な協議の結果の報告があった。現在教養学部在籍者数は約 3 割かた定員を上まわるが、理学系学部では昭和 45 年度の学部定員を臨時に増加することは不可能であるので、昭和 46 年度に例年の 3 割程度の数の進学者を収容する方針である。理学部でも小人数学科の事情など考慮しつつ大体その方針がとられることになる。

8. 臨時カリキュラム委員会に関する問題

理学部委員高宮教授より、理学部各学科から出された意見をまとめた結果が紹介された。それによると一般に理学部では現在よりもやや早い時期に専門教育に着手し、一貫した専門教育を行ないたい希望が強いが、振分け時期については現行の 3 学期末でよいと考える意見がやや多い。また進学振分けについては教養学部時代の総点数による方法は感心できないという結果になっている。なお最近の臨時カリキュラム委員会の活動については本号に別記してある。

9. 昭和 46 年度以降の入試について

入試委員田丸教授より、近く全学的な結論を出さなければならぬ事情の説明があり、理科四類構想、縦割教育重視、入試の際の採点方式について活発な意見の交換が行なわれた。理四構想は全学的には受け入れ難い見込とのことである。

10. 理学部と改革問題

全学の動向について学部長からの説明があり(「改革フォーラム」に記載されている)、教官側の改革委員会は昭和45年1月には発足させたい総長室の意向であるので、協力を依頼した。これに関連して各方面で話題にされている諸種の改革案を考えたとき、理学部はどうか、特に本学の場合には理学部としての機能がどうかについての討論が行なわれた。

記事訂正

先号広報所載の「長谷部言人元教授逝去」記事で、誤記がありましたので訂正いたします。

同記事始めから5~6行目、「理学部に人類学教室が創設されたとき」を「理学部に人類学科が創設されたとき」に訂正。また同記事「教室創設者としての」を「学科の創設に貢献された」と訂正いたします。

因みに、理学部人類学教室は明治25年帝国大学理科大学教授に任ぜられた故坪井正五郎博士によって創設され、明治26年人類学講座の設置に伴い同博士が初代担任教授として教室を主宰、昭和14年本講座を母体として人類学科が創設されるに当たり、故長谷部博士が人類学科初の主任教授に就任された。

(渡辺直経)

お知らせ

外国人のための英文案内書

「東京大学へ入学を希望する外国人のための案内書」が最近つくられました。学部・大学院の正規学生・研究生、出願資格、選考方法、学部学科や大学院各研究科・専門課程の組織、出入国管理令(抄)や文部省奨学金留学生制度なども書かれている親切な案内書であり、英文・和文が併記してあります。この案内書が欲しい方は事務部教務掛にお申出下さい。

留学生・奨学生・海外派遣研究者募集

下記のような案内書が事務部に来ております。

オランダ・デルフト工科大学研究員募集

(1970年9月~1971年9月)

オーストラリアでの放射性アイソトープ研究会

(1970年6月22日~7月17日)

昭和45年度仁科記念財団海外派遣研究者1名募集

アメリカ・アクロン大学大学院留学生

財団法人ロータリー米山記念奨学会昭和45年度奨学生募集

寄稿お願い

理学部広報にみなさんからなるべく多く御投稿をいただきたいと思っております。宛先は

地球物理研究施設 福島 直 (内線 7511)

理学部広報 第1巻(1969年) 総目次

第1号 (昭和44年1月15日)

発刊の辞、行事および予定
理学部教授会内各委員会の構成
理学部各号館運営組織
各教室主任名と電話番号・事務部
学生部移転先および臨時連絡電話番号
教授会メモ、理学部全員交渉(規約・経過報告)
理学系大学院研究科学生自治会の公認
教務連絡(大学院博士課程入試・進学手続)
暴力の問題についてのアピール
学生諸君に(理学部長より)
理学部弘報編集後記とお願い

第2号 (昭和44年1月31日)

理学部長の文書(理学部学生諸君へ、理学部学生院生諸君へ)
総長代行の文書(学生諸君に訴える、ふたたび諸君を構内に迎えるにあたって、文部省への抗議文)
七学部集会和確認書、授業再開状況
理学部建物の被害に関する経過(理学部1号館、2号館)
理学部会合日誌・教授会メモ、理学部集会
理学部総合計画委員会
第8期日本学術会議会長に江上教授
留学生募集、編集後記

第3号 (昭和44年2月15日)

総長代行の文書
当面の課題について学生諸君に訴える
確認書の審議を終えて
評議会における確認書審議結果
理学部会合日誌・教授会メモ
理学部教授会内委員会報告
第1研究委員会(処分制度・学則)
第2研究委員会(学生参加問題)
第3研究委員会(部長・総長公選問題)
教務連絡(大学院単位取得、イタリア留学生)
東京大学弘報委員会刊行物の引用その他使用基準
寺沢寛一名誉教授逝去、編集後記

第4号 (昭和44年2月28日)

大学改革準備調査会の覚書公表

理学部会合日誌、教授会メモ、人事異動
処分制度に関する理学部教授会第1研究委員会報告全文
昭和44年度講義一覧、編集後記

第5号 (昭和44年3月15日)

久保理学部長に昭和44年度日本学士院恩賜賞
昭和43年3月末にご退官される先生方
吉田耕作教授(数学教室)
藤田良雄教授(天文学教室)
森野米三教授(化学教室)
前川文夫教授(植物学教室)
理学部の制度改革についてのアンケート
お知らせ(東京大学再建基金・地球物理学教室藤代技官退職)
理学部全員交渉第2回会合流会、編集後記

第6号 (昭和44年4月1日)

理学部長再選にあたって
総長選挙関係報告、理学部長改選で久保学部長再選
理学系大学院博士課程修了者と学位論文題名
理学系大学院修士課程昭和44年3月修了者
理学部昭和44年3月卒業生
大学改革準備調査会の覚書
「七学部代表団との確認書」の解説出版
理学部会合日誌、教授会メモ、教授会関係委員会委員、各号館運営委員会
昭和44年度教室主任・大学院専門課程主任
理学部討論会
東京大学当局と東京大学職員組合との確認書
公務員試験についてのお知らせ、編集後記

第7号 (昭和44年5月1日)

理学部昭和44年4月卒業生
理学博士学位授与者(昭和44年1~4月)
理学部会合日誌、理学部討論集会
教授会メモ・委員交代、教官人事異動
理学部の制度改革についての第1回アンケート集計結果
理学部長会議での「要望書」要旨
大学改革準備調査会の覚書(続)
理学部事務部での事務分掌紹介
お知らせ(昭和44年度教育実習、卒業延期にともなう授業料、昭和44年度国家公務員上級試験説明会、留

学生関係, 大学院学修科目届申請, RCA 助成金提供,
日本育英会からの通達, 大学院学生自治会室)
寄稿 (大学改革準備調査会資料 No. 5, No. 6「規則処
分専門委員会覚書」に関する意見, No. 8「大学にお
ける学生の役割と権利」についての意見)

第 8 号 (昭和 44 年 6 月 1 日)

国立十大学理学部長会議
理学部昭和 44 年 5 月卒業者氏名
最近の学内情勢と経過概要
大学改革準備調査会関係記事
理学会合日誌・理学部有志討論会
教授会メモ・理学部総合研究施設
理学部の制度改革についての第 2 回アンケートの報告
昭和 45 年度大学院理学系研究科修士課程学生募集要項
訂正・お知らせ, 寄稿 (管理組織改革に関する意見)

第 9 号 (昭和 44 年 7 月 1 日)

「大学の運営に関する臨時措置法案」に対する 東京大学
の見解および関連する学内情勢
大学改革準備調査会関係記事
教養学部問題懇談会の中間報告
理学会合日誌・教授会メモ・委員交代
教官懇談会メモ
6.13 理系院生との討論ならびに交渉の経過
理学部総合計画委員会資料 No. 2 (大学の中における理
学部, 理学部の条件)
理学系大学院修士課程学生募集要項補遺
6 月 21 日の化学館火災について
編集後記・投稿お願い

第 10 号 (昭和 44 年 8 月 1 日)

学生諸君へ総長から改革へのよびかけ
大学改革準備調査会関係記事 (覚書の内容目次紹介)
東京大学広報委員会刊行「学内広報」中の主要記事紹介
理学会合日誌・教授会メモ
理学部における「大学立法」反対運動
大学改革準備調査会覚書に対する理学部教官有志の意見
理学部の将来を考えるための資料紹介
電力の節約についての依頼

第 11 号 (昭和 44 年 9 月 8 日)

偶感 (理学部長)
久野教授の逝去を悼む
第 31 回国立 10 大学理学部長会議でつくられた要望書

理学部日誌, 臨時教授会メモ
理学部 4 号館 1 期工事完成, 3 号館増築工事完成
大学改革準備調査会関係記事
「大学の運営に関する臨時措置法」に対する 東京大学の
見解
お知らせ (教官公募, 留学生など), お願い

第 12 号 (昭和 44 年 10 月 1 日)

理学会合日誌・教授会メモ・教官人事移動
東京大学理学部外国人客員研究員に関する内規
理学部教科改正概要
教養学部自然科学科教官との懇談会のまとめ
理学部の将来を考えるための資料 No. 2 について
研究実験および実習等における災害による学生の診療費
に関する申し合わせ
学生自治会・院生自治会からの申入れ
お知らせ (博士学位論文提出期日, 大学院入試期日, 奨
学生・留学生関係, 学生定期健康診断, 大塩事務官死
去), 編集後記

第 13 号 (昭和 44 年 11 月 1 日)

大学改革についての提案
大学改革準備調査会第一次報告
大講堂の改修・利用
理学系大学院修士課程入試終る
理学会合日誌・教授会メモ, 理学部幹事交代
理学部外国人客員研究員
大学院の現在と将来 (東大理学系大学院の立場から)
月岩石試料研究について
正野教授の逝去を悼む
お知らせ (昭和 45 年度教育実習, 留学生・奨学生関係)

第 14 号 (昭和 44 年 12 月 10 日)

進学生の諸君を迎えて (理学部長)
理学部への進学生学科別内訳
大学改革問題についての全学学生委員会委員長からの呼
びかけ
理学会合日誌, 教授会メモ, 外国人研究員
入試制度に関する教官懇談会メモ
臨時カリキュラム委員会の設置
第 32 回国立 10 大学理学部長会議
長谷部言人元教授逝去
お知らせ (教務関係, 職員検診)
寄稿: 1969 年をふりかえって (小堀 巖)